

# 果樹の凍霜害軽減技術の開発

## 1 目的

気候温暖化によりリンゴやナシなどの果樹類の生育は前進化傾向にあり、開花時期が早まることで、低温に遭遇する危険性が増大している。

本事業では、従来の凍霜害対策の中でも生産者が取組みやすい防霜資材の効果を確認し、併せて、多目的防災網の被害軽減効果について検証する。

## 2 研究計画・試験方法等

### 1) 防霜資材の効果検証

- ・現地実証ほを設置し、防霜資材の散布効果について調査を行う。
- ・開花期の日本ナシ(鉢植え)に防霜資材を散布し、その後、冷凍冷蔵庫へ搬入して低温処理(-2℃程度)を行い、防霜資材の凍霜害抑制効果を確認する。

### 2) 多目的防災網の被害軽減効果検証

- ・ハウス等で開花促進させた日本ナシ(鉢植え)を降霜時期に露地で低温に遭遇させ、多目的防災網被覆の有無による被害程度を調査する。
- ・他県で効果が確認されている多目的防災網の本県での適応可能性について検討する。



健全な果実



凍霜害により被害を受けた果実



防霜資材 ( Frost Guard )



防霜資材 (霜ガード)

多目的防災網の  
設置イメージ

写真は「品目ごとの気象被害防止に向けた技術対策」(農水省HPより抜粋)

